

## 紅河デルタ古代都市ルイロウ城址第5次発掘概報

黄曉芬, 黎文戰, 木下保明, 城倉正祥, 陳斌, 会下和宏, 田畑幸嗣, 丁麗玄, 伝田郁夫

### 一. はじめに

今回のルイロウ城址第5次発掘調査は、計画通りに進行し、多くの新知見を得て無事終了した。

2013年、日本の東亜大学とベトナム国家歴史博物館の間で『日越考古学共同研究』の五年協定（2013-2018）を結び、北寧省順成県・紅河デルタ地帯に残された古代都市ルイロウ遺跡の発掘調査と学際的研究を5年連続で実施してきた。ルイロウ築城のIV期編年を確認し、出土遺構・遺物から交趾郡の政庁都市ルイロウの実像を具体的に描けるようになり、様々な学術的新知見が得られた(図1)。



外郭城: 9° 西振れ

北城壁 603m

南城壁 512m

西城壁 290m

東城壁 268m

(2013年GPS計測値)

内城: UTM座標軸 約20° 西振れ

東西長 約180m

南北幅 約110m

(2014-16年度発掘測量データ)

現存する交趾郡治・ルイロウ城址の平面図

今年1月、日越双方が協議をして、『日越考古学共同研究』(2019-2023)の新五年協定を締結した。引き続きルイロウ遺跡の発掘調査とその文化様相の解明を継続的に行い、紀元前後10世紀の間、紅河デルタ平野における古代都市の盛衰をより深く探究し、解き明かしてゆく。

交趾郡治・ルイロウ城址の第5次発掘調査は、2019年4月18日から5月9日まで計22日間実施した。今回の三次元計測を用いたルイロウ城址の発掘調査は、これまで私達が実施してきた第1～4次ルイロウ城址の発掘調査、ルイロウ内城の総合研究成果に基づき、外城南壁の断面構造を調査・分析し、その建造年代を具体的に検討するものである。

### 二. ルイロウ城址第5次発掘調査の成果概要

#### 1. ルイロウ城址第5次発掘調査

残存するルイロウ外城南壁の西側にあたり、Thanh Doと呼ばれる地点。

1) 発掘区設定: 外城南壁西側 トレンチ番号 19LL.T10

発掘総面積 約20㎡



図2 発掘区設定：外城南壁の西側



図3 19LL.T10 上層遺構

## 2) 基本層序：19 LL.T10.L1～L4

**T10.L1:** 暗褐色土層、3世紀から20世紀の磚・瓦・陶器片を多数含む攪乱土坑で、表面を平らにしている。ここにはかつて町の市場 Thanh Do があり、家具、工具、家畜、鳥など様々な商品を売買してにぎわっていた。現在観音像が安置されている寺(非相大禅寺)のある所は、外城南壁の西端あたり、以前は船着き場であった。1970年代以降、この市場はなくなり、アメリカとの抗戦時の防空壕が造られた。

**T10.L2:** 暗褐色土層、磚・瓦・陶器片を多数含む、18世紀—陳朝

L2a：陳朝以後（唐代を含む）の造築部分

L2b：陳朝以後の堆積土、唐代の暗渠を破壊している。

**T10.L3:** 赤褐色・浅黄橙色粘土が斑状に混じった版築土（城壁）、城壁の高さ1.3m、7世紀以降？  
版築土1層の厚さは8cm前後、六朝・唐代の磚・瓦片を多数含む

**T10.L4:** 褐色粘土、城壁の下に造成された掘り込み地業、厚さ1.8m、7世紀前後？

多量の六朝・唐代の磚・瓦片、陶磁器片が出土している。

地山の上面に唐・六朝の磚で磚造りの暗渠が築造されている。

暗渠の北端底部の東側で唐代前期の白釉の陶器の壺が出土している。

## 3) 検出遺構： アーチ頂をもつ磚造りの暗渠（図4）



図4 磚造りの暗渠（19LL.T10 下層）

この磚造りの暗渠は、L4と同時に築造されたもの。

・暗渠の現存長は11.1m、幅0.75m、高さ0.90m；暗渠内部の高さは0.55m、幅0.45mである。

- ・暗渠の両側壁は唐代の大型の長方形磚で築かれており、高さは0.33mである。
- ・暗渠の天井部は、アーチ構造で六朝の楔形磚（少数）、あるいは小型の長方形磚を切断して使っている。このアーチ頂造りに使用された長方形磚には削りの加工痕がある。すなわち、長方形磚の短、長両側面を工具で削り取って、両側面の幅を狭くして楔形にする工夫である。
- ・アーチ構造の頂部中央は、長方形磚を半分に割って斜めに塞いで、整然と1列に並ぶ。
- ・暗渠の底部には長方形の磚を網代敷にし、その下は厚さ10～15cmの瓦片で補強している箇所が見られる。

以上、T10断面発掘調査の結果により、従来、ルイロウ外城南壁と見られた建造物は、唐代に造り出された可能性が高いことを明らかにした。また、発掘トレンチの中央には保存状態の良い磚造りの暗渠を検出し、古代都市ルイロウの排水システムを確認する重要な発見をした。

## 2. LUI LAU 城址の考古学的ボーリング調査

1) **ルイロウ外城南壁と城濠**： 現存する外城西南隅の付近のボーリング調査を実施した結果、南壁外側にある城濠遺構の存在を確認した。この城濠の規模は幅約8m、深さは地表下約4mである。

2) **ルイロウ内城Ⅲ期の城濠遺構**： 16LL. T6・T7・T8各トレンチの発掘調査のデータをもとに内城土塁の東濠は幅約8m、城濠の深さは地表下約4mであることが分かった。

## 3. 遺跡の三次元計測

先進的なデジタル写真実測技術を用いた紅河デルタ平野の古代都市遺跡調査、3D考古学を初めて実践した。19LL. T10の外城南壁の断割り断面、また、南壁の下層部にほぼ完全に保存された状態で検出したアーチ頂をもつ磚造りの暗渠についても、三次元計測・立体的画像復元をはかり、遺構の精密な観察、記録を実施した。さらに、ルイロウ発掘区域のドローン3D画像の記録データを取り、発掘区の調査復元や緻密な記録作業をもとに、ルイロウ城址の実態を具体的に再現することができた。これはルイロウ城址の真実記録と保存事業を強力に促進しただけではなく、立体的画像・動画データをベトナム国家歴史博物館の展示内容を充実させる新技法の利用も寄与することができる。

## 三. 結語

2012年以来、日越考古学共同調査団はルイロウ城址と城址東南の墳墓群に関する学術調査と発掘実施を継続しており、今年は7年目に入った。ベトナム国家文化部、北寧省文化局など、各行政部門の指導のもとに、紅河デルタ平野における古代都市遺跡の課題調査と学際的研究を毎年、系統的な企画調査を実施してきた。私たち双方の学者が一致団結し、ルイロウ遺跡の解明に努力しつづいた結果、毎年重要なルイロウ考古学新成果を獲得している。

交趾郡治・ルイロウ城址第五次発掘実施において、現地調査の期間は短く、調査予算と発掘面積の両方とも厳しかった。しかし、我々国際共同調査隊のメンバー全員が一体となって努力し、最新の三次元計測を用いたルイロウ考古学調査は、短期間でかつ効率よく成し遂げた。要するに、現存するルイロウ外城南壁遺跡は六朝期の構築物ではなく、唐代初期に初めて建設された可能性が大きいことを確認した。また、今回の発掘調査で唐代初期頃の磚造りの暗渠を発見・検出した。磚造りのアーチ頂暗渠の構造や遺構の保存状態など、現在中国古代都市の発掘資料を調べても、これと類似する都市排水施設の調査事例は、非常に稀である。紅河デルタ平野における古代都市の実態、ルイロウ文化の様相を実証的に解明するため、とても重要な科学的根拠を提供してくれた。